



2020年の東京五輪・パラリンピックの主な会場となる新国立競技場(東京都新宿区、渋谷区)。東洋学園大学グローバル・コミュニケーション学部学生は、完成までの姿を写真に収めようと「定点観測」しています。中高生にもできるような観測のコツを聞きました。(寺村貴彰)

東洋学園大学 グローバル・コミュニケーション学部
(東京都文京区)

新国立競技場を定点観測リレー

建設中の新国立競技場を近くのビルの屋上から撮影する学生＝10月12日

⑦

ビル屋上から撮影、メモ

同じ場所(定点)から、19年11月に完成し、継続的に特定の物を観察する予定の新国立競技場を選び、以前のものと比較し、16年5月から半月に1回ほどのペースで観測を続け、先月12日授のゼミ生は、その対象で38回目となりました。



「観測者のメモ」17年10月12日「基盤の上に競技場の床ができてきて、クレーンも高さが増してきた。砂ぼこりで少し全体がくもっていた」

16年5月11日「左手にある木々がなくなっていた。最初から変化があるとは思ってなかったのが驚いた」



②

2016年4月20日
「観測の下見」



①

観測する場所は、建設予定地近くのビルの屋上です。3年生のゼミ生10人が順番に担当しています。決められた方向をスマートフォンで撮影し、天気やその時の状況などをメモします。

観測する場所は、建設予定地近くのビルの屋上です。3年生のゼミ生10人が順番に担当しています。決められた方向をスマートフォンで撮影し、天気やその時の状況などをメモします。

17年3月30日
「地面はほとんど整ったように見えましたが」



④

16年12月7日
「作業車が増えた」



③

現在の4年生が始めたプロジェクトです。国と国との関係や文化交流を学ぶなか、大学生として東京五輪・パラリンピックに関われないか、と考

部分を切り取って調整すること。複数枚撮り、写りが良いものを選びます。撮影位置や方向を示した資料をゼミ生の間で共有。「左側の携帯電話の基地局」「道路の曲がり角」「東京スカイツリー」など、建造物を目印に、誰が撮っても同じ構図になるよう工夫しています。

17年7月20日
「競技場の根元になるであろう部分がつくられていた」



⑥

17年5月24日「コンクリートの色が見えてくる。ガラスに覆われた」



⑤

測は、一つの物をみんなで作るリレーのようなもの。表現します。先輩や自分たちの思いを込めたパトンは完成まで、後輩に受け渡していきます。

えました。定点観測の面白さは「以前と比べ、大きく変わったところ」と福田さん。1年半前には雑草が生い茂っていた空き地は、数カ月で整備され、ショベルカーやクレーンを導入して、建物の土台ができました。現在は、楕円形の外壁の姿が見て取れます。

岩崎さんは「定点観測は、一つの物をみんなで作るリレーのようなもの。表現します。先輩や自分たちの思いを込めたパトンは完成まで、後輩に受け渡していきます。」